



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>			
建物名称	湖西工場 新塗装工場 建設工事	BEE	1.2 BEEランク B+ ★★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	<b>3.9</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐用年数の長い内装仕上げ材を使用</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨効率のよい設備機器を導入</li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓に加えて節水型便器を採用</li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③	昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔		
Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出		
3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上		
LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
2 ⑧	自然エネルギー利用		
3 ⑨	設備システムの高効率化		
4 4.1 ⑩	モニタリング		
4.2 ⑩	運用管理体制		
LR-2 1 1.1 ⑪	節水		
1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無		
1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
2 2.1 ⑫	材料使用量の削減		
2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用		
2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材		
2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用		
3.2 3.2.1 ⑬	消火剤		
3.2.2 ⑬	断熱材		
3.2.3 ⑬	冷媒		
LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮		
2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善		
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	<b>2.8</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	<b>2.3</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</li> </ul>	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出	
	2 ⑥	まちなみ景観への配慮	
	3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-2 2 2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材	
LR-3 2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善		

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	湖西工場 新塗装工場 建設工事	階数	地上2F
建設地	静岡県湖西市白須賀字宿北4520-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条地域	平均居住人員	102,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,376 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2022年10月3日
敷地面積	30,500 m <sup>2</sup>	作成者	小川 高行
建築面積	18,968 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	29,428 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.7

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		
<b>Q1 室内環境</b> ・評価対象外	<b>Q2 サービス性能</b> ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・OAFフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・敷地内に屋外広告照明の設置は避け、周辺の光害抑制を図っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される